

高齢者施設を訪ねて手話歌交流

教育課程上の位置付 部活動(生活文化部)

実施概要

施設は、学校の実習先でしたが、社会貢献活動は初めてです。中学部の生活文化部の生徒が、施設において、手話歌での交流を行いました。始めに生徒が手話歌、「ありがとうの輪」、「にじいろ」、「ピリッブ」の3曲を合唱しました。次に、「上を向いて歩こう」の歌詞を生徒が利用者と一対一になり、手話でどう表現するかを教えました。その後、同曲を生徒と利用者が一緒に手話で合唱しました。

活動参加者 当校 生徒…9人 担当教員…4人
内訳 交流先 利用者…9人 担当職員…3人

交通手段 当校とケアハウス赤堤(名称)との距離はおおよそ1.1km
徒歩で訪問 約15分



利用者さんも、一緒に手話歌

活動報告 実施日：11月17日(金)

生徒代表による手話を交えての挨拶の後、まず、CDで音楽を流しながら、生徒が3曲の手話歌を披露しました。利用者は、生徒の手の動きをしっかりと見ていました。

続いて、生徒が利用者の近くに移動し、生徒一人が利用者一人と一緒にになり、丁寧に手話の説明を行いました。あらかじめ準備した「上を向いて歩こう」の歌詞の手話表現を記した紙を机の上に置き、生徒がそれを指し示しながら、利用者に手話を教えました。生徒に一つ一つの動作を確認する利用者の姿や、中には、利用者の動作を生徒がにこやかに教える姿などが見られました。手話を覚えられたことに、涙ぐむ利用者もいました。

手話歌の練習では、お互いに手話を通じて交流した後、一緒に「上を向いて歩こう」を合唱しました。利用者はそれぞれ、自分を担当してくれた生徒を見ながら、一緒に手話で合唱し、そこには一体感が生まれていました。

そして、最後に利用者から「アンコール」と声が上がると、もう一度、生徒と利用者が一緒に、「上を向いて歩こう」を合唱し、なごりを惜しみながら、活動を終了しました。

当日のスケジュール

13:30 学校、施設、SSC、都教委4者事前打合せ(施設食堂)

安全の確保及び動線の確認

13:50 生徒が引率教員と施設に到着 → 活動準備

14:00 開会に先立ち、施設長より本活動の紹介

開会 生徒挨拶

14:05 手話歌披露 ・ありがとうの輪 ・にじいろ ・ピリッブ

手話の説明と手話歌の練習

14:20 (生徒が利用者の近くに入り、一緒に練習を行う)

手話歌合唱 ・上を向いて歩こう

14:40 終わりの挨拶(生徒代表)

14:45 施設長感想、副校長より挨拶

14:50 閉会 終了後、引率教員と生徒は学校へ出発

■活動のために準備したもの

- 歌詞とその手話表現を書いた紙(利用者の方への説明資料として)
- 歌詞を書いた模造紙

■工夫したところ

施設の利用者の方になじみのある曲を合唱するようにしました。また、可能な限り同じ手話表現を使うことにより、少しの手話表現で歌えるフレーズが多くなるようにしました。

■実施にあたって注意したところ

利用者の方に影響がないよう、体調管理には気を使いました。また、会場できれいに手話歌が見えるように配列や間奏の際の動きなどを検討しました。

■良かったと思うところ

普段手話を使って生活をしている本校の生徒たちも、将来は健聴者と共に生活することが増えていきます。今回の様に、手話を使うことのできない方と筆談などでコミュニケーションを図り手話を覚えてもらう、という経験は将来役立つと思います。貴重な体験をさせていただきました。また、生徒たちは自分たちの発表で人を喜ばせることができると自信をもて良かったです。

■今後に向けての学校からの抱負

今回の体験は、生徒たちにとって「自分たちも人のために何かできる」ということを学ぶ良い機会だったと思います。今後、手話歌や劇の発表など相手に見てもらおう活動をする際には、相手の視点に立ち相手が喜んでくれるような内容にするように努めていきたいと思えます。

当校は、大学等への進学を目指す、全国で唯一の中高一貫の聴覚障害特別支援学校です。開校以来、自らの目標とする大学等への進路希望を実現した多くの卒業生を輩出しています。社会貢献活動としては、下高井戸駅など地域清掃や、部活動では地域区民センターで、手話歌を披露するなど行ってきました。

活動の感想

生徒・教員の感想

生徒

- 利用者の方々が手話を一生懸命覚えようとしてくれたのがとてもうれしかったです。また、手話を使わずにコミュニケーションを取ることの難しさを感じました。今後もこのような良い経験をしたと思いました。
- 私は普段、年配の方との交流などしたことがなかったため緊張しましたが、堂々と発表することができました。今後も是非、交流を続けたいと思いました。利用者の方々にはいつまでも元気でいてほしいです。
- 利用者の方々が「上を向いて歩こう」を知っていたので、スムーズに交流ができました。良い経験になったと思います。

教員

施設と手話歌による交流をさせていただくのは初めての経験でしたが、大変温かく迎え入れていただき、生徒たちも教員の予想以上に良い雰囲気の手話を教えたり、一緒に歌ったりすることができていました。聴覚に障害のある本校の生徒には、コミュニケーションへの不安があります。今回のような経験を積み重ねることで、生徒たちは誰とでも心を通わせることができるという自信を深めていけるのだと感じました。

施設の参加利用者・担当者の感想

利用者

- 手話を初めて教えてもらいました。手話の動作が道理にあっていて感激しました。
- 本当にうれしかったです。堂々としていて良かったです。もし、学校を見に行けるような機会があれば行きたいと思います。
- 皆さん、真面目で、良かったです。大事だと思います。とてもすてきでした。ありがとうございました。
- なかなか手話を覚えることができなかったのも、また、いつでも来ていただきたいと思います。

施設長

都立特別支援学校における社会貢献活動モデルの一環として、都立中央ろう学校の生徒の皆さんとケアハウス赤堤の入居者様との初めての交流会を開催させていただきました。生徒の皆さんの手話による歌を披露していただきましたが、ハンディキャップを感じさせないその姿は、心に響くものがありました。素晴らしいかったです。入居者様も、自然と涙ぐまれておりました。交流会終了後も、「参加できて良かった!」と皆さんから感謝の嵐でした。手話ができない私達とのコミュニケーションは、大変だったと思いますが、この経験が、生徒の皆さんの生活の中で、何かしらの役に立つのではないかと、そう信じ願っております。ご多忙の中、ご協力いただいた職員の皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました。

■実施までの経過 ※(コ)：コーディネーター

7月25日 (コ)、学校を訪問。副校長他4名と打合せ

8月2日 (コ)、施設を訪問。施設長に事業を説明
施設長快諾

8月28日 (コ)、施設を訪問。施設長に詳細の説明
場所の確認

9月5日 (コ)、学校を訪問。担当教員と打合せ

9月25日 (コ)、と担当教員、施設を訪問。
施設長に活動内容の説明と場所の確認

交流先

株式会社ソラスト ケアハウス赤堤

住 所：東京都世田谷区赤堤5-33-7

■施設概要

- 都市型軽費老人ホーム 定員20名



手話表現と一緒に練習しましょう



私たちの手話歌をご覧ください

